令和６年２月１日（木）

令和５年度　校長だより　第 11 号

１　２月になりました。

「１月行く、２月逃げる、３月去る」とは実によく言い表したもので、つい先日、新年を迎えたかと思っていたら、あっという間にひと月が過ぎてしまいました。３年生は、６日から家庭学習に入り、１・２年生も、あと３週間余りで学年末試験に臨みます。19 日には、皆さんの後輩である中学３年生の入学志願票受付が始まります。

３年生は、本校を巣立ってそれぞれの道へ進む時が近づいてきました。好スタートで新生活を始められるよう、準備を整えていってほしいと思います。また、１・２年生にとって今は、新２・３年生ゼロ学期といえます。

『時間は有限、夢は無限』、一日一日を大切にしていきましょう。

２　「先のことがどのくらい見えているか」

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

子どものときから目標をもっている人は、先を見てエネルギーを注いでいます。

たとえば、ずっとスポーツやダンスをやっているとか、楽器や歌を習っているとか、プロになることを夢見ている人たち。実際にプロになれるかどうかはともかくとして、そこに近づくためにはどういう方法があるのか、どういう道を行けばいいのかを真剣に考えています。

そのためにはどういうところに進学するのがいいのか、いま何をすればいいのか、小・中学生の時期から見すえて動いています。パティシエになりたいとか、トリマーになりたいといった夢をもっている人も、どういう学校で技術を磨いたらいいかを具体的に考えることができます。

やりたいことがないという人は、ぼんやり過ごしがちです。それは、先のことを具体的に思い描けないから。　じつはそういう人ほど、自分の可能性を狭めてしまわない、ということに配慮しないといけません。　もし、はっきり自分の将来に対する目標が定まっていないのであれば、さしあたってどういう分野にでも進めるようにしておかないと。

それはどういうことかと言うと、

「勉強しておかないといけない」ということです。それが、学校の勉強をやるひとつの意味です。何をしたらいいかわからないと迷っているなら、勉強するんです。何にでもなれるよう、幅広い知識を身につけておく。それが将来への準備になる。未来の自分に対して、いまできること。先行投資と言ってもいいかもしれません。友だちと将来のことをまじめに話し合うのは大切です。真剣に話してみると、将来への準備を着々と進めている人もいると思いますよ。

齋藤　孝著『本当の「頭のよさ」ってなんだろう？』から）

３　笑顔と感謝の心

１月 15 日（月）朝、外部の方から「本校生徒のことで直接校長に話をしたい」という旨の電話をいただきました。内容は、１月 13 日（土）夜７時頃、混雑していた電車で女子生徒２名の対応が素晴らしかったというものでした。幼い子どもを連れた方が乗ってきた際、さわやかに席を譲っていたとのこと。彼女らは共通テストの受験を終えた帰宅途中で、自分たちも疲れていただろうに、笑顔と挨拶が大変好印象であり、まさに『静岡の宝』だと感じたそうです。学校を尋ねたところ、科学技術高校と教えてくれたそうです。また、その方が本校のＨＰをご覧になられ、『共通テスト激励会』のブログ記事に、『笑顔と感謝の心を忘れずに』という応援の言葉があり、直接このことを伝えたいと思ったと話してくださいました。御連絡をいただき、本当にありがとうございます。